

シカの被害対策について

シカの基礎知識

シカの生態と行動

① 食べ物

◇シカはウシと同じ反芻動物です。様々な植物をエサにし、その種類は千を超えます。

◇牧草が好物で、イネの葉なども好んで食べます。木の葉なども食べ、造林地ではヒノキが食害されます。また、樹木の皮なども食害します。



② 行動

(活動形態)

繁殖期はオスがハーレムを作ってメスと行動をともにしますが、繁殖期以外は、メスとオスが別々の群れを作って行動します。

メスは母親と娘の血縁関係を主体としたメスグループや、子シカと母親シカで構成される母子グループで生活しています。

オスの子は、一才ぐらいまで母子グループの中で生活し、その後独立してオスグループに入ります。

(行動時間帯)

シカは、夜間に行動することが多い。これは、昼間に人間が活動しているため、人間の影響が少ない地域では昼間も活動します。一日で最も活動が活発になるのは、夕暮れの食事時です。

(行動域)

シカの行動域は以外に狭く、およそ0.5～2平方キロメートルです。あまり移動せず、同じ場所に群れで定着して生活しています。

ただし、母子グループから独立したオスは、新たな生活場所を求めて移動(分散)していくことがあります。

夜間農地に出没する個体は、同じ場所で確認されることが多く、毎晩同じ個体が農地に出ている可能性が高い。

③ 繁殖

◇メスは1歳半で性的に成熟して、2歳で出産できるようになる。

◇基本的に年1回出産(6月上旬)し、出産する頭数は1頭で、双子を生むことはほとんどない。

シカの被害対策

野生動物による被害対策の基本は3つで、①有害捕獲等による生息密度管理、②防護柵等による被害管理、③集落内の放棄果樹対策などの生息地管理などが被害対策のポイントとなります。

① 生息密度管理

1年に1回1頭しか出産しないので、爆発的に個体数が増えることはありません。このため、捕獲することによって個体数調整を進めています。メスを多く捕獲することが効果的です。

メスシカは、狩猟鳥獣ではないことから、特定鳥獣保護管理計画の策定により、個体数調整や有害捕獲によって捕獲することになります。

② 被害管理

被害管理としては、シカ被害が発生する地区では、侵入防止柵等によって農地への侵入を防ぐ必要があります。

侵入防止柵の設置に当たっては、シカの特性を考慮して作成された柵を選んで、適正に設置するとともに、設置後の見廻りにより柵の維持管理を適切に行ってください。

シカは、助走なしで2mの高さを跳ぶことが出来ますが、ほとんどは潜り込みによる侵入です。このため、穴やすき間の空いた柵は効果が半減することになりますので、柵の維持管理を徹底して行ってください。

シカは、かかしや強い匂いのするものを置くと、警戒してしばらく出ないことがありますが、馴れると効果がなくなりますので、忌避剤などを使用する場合は、期間限定で使用するようにして下さい。

③ 生息地管理

シカが集落に出没する目当ては、農地の周辺にある雑草です。雑草を食べるために集落に出没して、ついでに農作物を食べることによって農作物被害が発生するのです。

このためシカが利用しにくい農地にするため、農地管理や作業体型を変更して雑草量を減らすことが大切です。

なお、除草作業は新たな雑草の再生を助長します。秋期に除草を行った路肩や圃場は冬期に緑草として繁茂することから注意が必要です。